

平成17年度会務中間報告

平成17年度日本弁理士クラブ事業計画

I. 標語



“知財立国に向けて
手をつなごう！”
(Hand in Hand)

幹事長 久保 司

II. 組織及び運営

1. 総会

定時総会 2回

(①平成17年5月16日、②平成18年1月)

臨時総会 1回

(平成17年9月20日)

2. 例会

随時(第1回例会:平成17年3月15日)

総会対策例会の開催

3. 幹事会

定例幹事会(各月第1水曜日18:30~)

正副幹事長会(原則として定例幹事会の前に
行う)

その他随時

III. 活動

1. 相談役・常任相談役の選任
2. 相談役・常任相談役会の開催
3. 日弁クラブ委員会の委員選任・諮問事項の決定
4. 日弁クラブ人事の調整・決定
5. 日本弁理士会委員会委員の推薦
6. 行事の企画・立案・実行
7. 総会・例会の開催と運営
8. 日本弁理士会との関係・協議・調整
9. 会内各派との関係・協議・調整
10. 会外団体との関係・協議・調整
11. その他

IV. 委員会活動

1. 政策委員会

- ① 日本弁理士会の正副会長会からの検討依頼事項への対応
- ② 知的財産権制度改革推進に関する検討と対応
- ③ 知財人材の育成のあり方に関する検討
- ④ 日弁内会派間の関係強化策の検討と対応
- ⑤ 日弁会員増強への具体的方策の検討と対応
- ⑥ その他

2. 協議委員会

- ① 平成18年度日本弁理士会役員選挙についての対応
- ② 常議員会の正副議長並びに監事会の正副監事長の推薦
- ③ 日本弁理士会役員に関する選挙規則の検討・制定

3. 規約委員会

- ① 日弁規約の検討と必要な場合における改正案の作成
- ② 日弁規約のPR

4. 会報委員会

- ① 会報の発行
- ② ホームページ委員会への情報提供

5. ホームページ委員会

- ① 日弁ホームページの維持強化・管理
- ② 会報委員会との関係
- ③ 日弁活動の広報

6. 研修委員会

- ① 一般会員研修の企画・立案・実行
- ② 能力担保研修用の研修・答練の企画・立案・実行

7. 組織検討委員会

- ① 新役員制度に対応した日弁組織のあり方の検討
- ② 日本弁理士会役員推薦のための運用基準、選

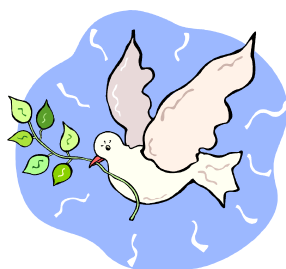
挙規則等の制定の検討

V. その他の活動

他会派との交流会の開催、関係のあり方の検討

VI. 行事

1. 旅行会(平成17年6月11日～12日 熱海温泉 新かど旅館 電話：0557-81-6185)
2. ゴルフ大会(平成17年6月12日)・於伊豆大仁カントリークラブ
3. テニス大会(平成17年11月)
4. ボーリング大会(平成17年12月)
5. 日本弁理士会役員選挙当選祝賀会(平成17年12月)
6. 第2回定時総会《新幹事長紹介》(平成18年1月)
7. 新年会(平成18年1月17日)於東商スカイルーム
8. 研修会(未定：随時)



組織と活動

副幹事長 真田 有

I. 日弁役員

1. 幹事会の構成

幹事長 久保 司(南甲)
幹事長補佐 栗原 史生(南甲)
副幹事長 岡部 譲(PA)
西出 眞吾(春秋)
真田 有(南甲)
小島高城郎(無名)
林 秀男(稲門)

幹事

(PA) 濱中 淳宏 岡田 英子
(春秋) 早川 裕司 青谷 一雄
(南甲) 海田 浩明 福迫 眞一
野河 信久 向山 正一
(無名) 片山 修平 藤田 雅彦
(稲門) 貝塚 亮平 榎本 英俊

会計監事

(PA) 臼井 伸一
(春秋) 岩堀 邦男

2. 各委員会の構成

[政策委員会](担当副幹事長 西出 眞吾)

政策委員長 (春秋) 奥山 尚一

副委員長

(PA) 井出 正威
(春秋) 杉本ゆみ子
(南甲) 伊丹 勝
(無名) 小泉 勝義
(稲門) 高橋 英樹

委員

(PA) 浅村 皓 神原 貞昭 村田 実
足立 泉 大西 正悟 福田 伸一
渡邊 敬介 萩原 康司
(春秋) 小山 輝晃 大橋 良輔 打揚 洋次
中村 修身 岩永 和久 大澤 豊
高橋 祥泰

(南甲) 藤沢 則昭 松田 治躬 松岡 修平
柏木 慎史 川井 隆
(無名) 香原 修也 八木 秀人 米山 尚志
(稲門) 三好 秀和 尾崎 光三

[協議委員会] (担当副幹事長 岡部 讓)

協議委員長 (P A) 浅村 皓

副委員長

(P A) 村木 清司 大西 正悟

(春秋) 伊藤 高英

(南甲) 染谷 伸一

(無名) 和田 成則

(稲門) 西脇 民雄

委員

(P A) 松田 嘉夫 神林恵美子 濱中 淳宏

(春秋) 紺野 昭男 澤木 紀一 高城 貞晶

(南甲) 蔵田 昌俊 千且 和也 近藤 豊

(無名) 高橋 俊一 須田 元也

(稲門) 牛木 護

[研修委員会] (担当副幹事長 岡部 讓)

研修委員長 (P A) 福田 伸一

副委員長

(P A) 本田 昭雄

(春秋) 畑中 芳実

(南甲) 石橋 良規

(無名) 鈴木 一永

(稲門) 大熊 考一

委員

(P A) 宮城 三次 鈴木 大介

(春秋) 伊藤 温 佐藤 秀昭

(南甲) 権澤 聡 田村 爾

(無名) 今岡 憲

[規約委員会] (担当副幹事長 小島高城郎)

規約委員長 (無名) 西 良久

副委員長

(P A) 藤谷 史朗

(春秋) 木戸 一彦

(南甲) 井上 春季

(稲門) 飯塚 義仁

委員

(P A) 小林 生央

(春秋) 佐藤 美樹

(南甲) 藤倉 大作

(無名) 山田 勉

[会報委員会] (担当副幹事長 西出 眞吾)

会報委員長 (春秋) 辻田 幸史

副委員長

(P A) 市東 篤

(春秋) 鈴木 啓靖

(南甲) 高橋 大典

(無名) 平川 明

(稲門) 笹山 温子

委員

(P A) 中隈 誠一

(春秋) 井川 靖之

(南甲) 瀧野 文雄

(無名) 須藤 雄一

[HP委員会] (担当副幹事長 林 秀男)

HP委員長 (南甲) 中村 猛

副委員長

(P A) 福島 弘薫

(春秋) 速水 進治

(南甲) 小川 嘉英

(無名) 佐々木敦朗

(稲門) 中野 寛也

委員

(P A) 西岡 邦昭

(春秋) 高城 貞晶

(南甲) 武政 善昭

[組織検討委員会] (担当副幹事長 小島高城郎)

委員長 (無名) 筒井 大和

副委員長

(P A) 井出 正威

(春秋) 杉本ゆみ子

(南甲) 蔵田 昌俊

(無名) 小泉 勝義

(稲門) 三好 秀和

委員

(P A) 狩野 彰 谷 義一 岡部 讓

(春秋) 長濱 範明 西出 眞吾 清水 善廣

(南甲) 丸山 幸雄

(無名) 江藤 聡明

(稲門) 飯塚 義仁 林 秀男

3. 相談役会 (担当副幹事長 小島高城郎)

相談役

秋沢 政光 浅村 皓 岡部 正夫

小山 鉄造 田中 正治 谷 義一

村木 清司 市川 理吉 奥山 尚男

北村 欣一 笹島富二雄 佐藤 一雄

佐藤 辰彦 篠原 泰司 波多野 久

井上 重三 樺澤 襄 佐田 守雄

鈴江 武彦 高橋 三雄 瀧野 秀雄

野本 陽一 鈴木 正次 筒井 大和

石山 博 中川 周吉

常任相談役

浅村 皓 竹内 三郎 幸田 全弘

下坂スミ子 稲木 次之

2年度 樺澤 襄 蔵田 昌俊

(無名)

1年度 河原 正子 吉岡 宏嗣

2年度 和田 成則 高松 俊雄

(稲門)

1年度 秋元 輝夫

2年度 中村 稔

3. 監事会 (◎=監事長 ○=副監事長)

1年度 星野 昇 (PA)

○岩堀 邦男 (春秋)

近藤 豊 (南甲)

2年度 ◎増井 忠式 (PA)

堀 進 (春秋)

梅村 莞爾 (南甲)

平成17年度総会 承認事項 (第1～3回)

II. 日弁所属の日本弁理士会役員

1. 正副会長会

会 長 佐藤 辰彦 (春秋)

総括副会長 谷 義一 (PA)

副 会 長 一色 健輔 (PA)

清水 善廣 (春秋)

河野 哲 (南甲)

富崎 元成 (無名)

2. 常議員会 (◎=議長 ○=副議長)

(PA)

1年度 飯田 伸行 鴨田 哲彰

藤谷 史朗

2年度 井上 義雄 馬場 玄武

越智 隆夫 河合 千明

福島 弘薫

(春秋)

1年度 打揚 洋次 ○宍戸 嘉一

高橋 克彦

2年度 篠原 泰司 紺野 昭男

澤木 紀一 正林 真之

(南甲)

1年度 伊藤 真 伊藤 洋二

田村 爾

第1回総会 (平成17年5月16日)

(1) 平成16年度決算報告の承認を求める件

林担当副幹事長による説明、及び、会計監事の書面による報告の後、採決の結果、賛成多数により可決。

(2) 平成17年度事業計画の承認を求める件

久保幹事長による説明の後、賛成多数により可決。

(3) 平成17年度予算の承認を求める件

林担当副幹事長による説明の後、採決の結果、賛成多数により可決。

(4) 平成18年度日本弁理士会役員の推薦及び日弁役員選出に関する件

幹事長一任とすることについて採決の結果、賛成多数により可決。

第2回総会 (平成17年6月11日)

(1) 平成17年度予算修正の承認を求める件

報告事項

(1) 平成18年度日本弁理士会会長候補予定者についての報告

第3回総会（平成17年9月6日）

(1) 日本弁理士クラブ規約改正の件

（文責 副幹事長 真田 有）



日本弁理士会 平成18年度役員

会務報告（協議担当）

副幹事長 西出 眞吾

平成18年度日本弁理士会役員定時選挙において、日本弁理士クラブが推薦した次の会員が当選しました。

会員の皆様の絶大なるご支援に対し厚く御礼申し上げます。

会 長 谷 義一

副会長 高橋 祥泰 八木 秀人

伊丹 勝 岡部 譲

渡邊 敬介

常議員（二年任期）

井澤九二男 幸田 全弘

伊東 忠彦 吉田 研二

保科 敏夫 泉 克文

白井 伸一 鷲 健志

青木 篤 久門 保子

高橋 英樹 田村 和彦

福迫 眞一 上山 浩

常議員（一年任期）

江崎 光史 一色 健輔

松岡 修平 岩永 和久

監 事 宇野 晴海 佐藤 彰芳

成瀬 勝夫



日本弁理士クラブ研修報告

副幹事長 岡部 譲

日本弁理士クラブでは毎年独自の研修会を開催していますが、本年度も旅行会における研修会と特定侵害訴訟代理業務研修を開催しました。以下、日弁

研修委員会の活動の様子をご報告します。

1. 委員会メンバー

委員長 福田 伸一（P A）

副委員長 畑中 芳実（春秋）

石橋 良規（南甲）

鈴木 一永（無名）

大熊 考一（稲門）

本田 昭雄（P A）

委 員 伊藤 温（春秋）

佐藤 秀昭（春秋）

樺澤 聡（南甲）

田村 爾（南甲）

今岡 憲（無名）

宮城 三次（P A）

鈴木 大介（P A）

2. 旅行会研修

日 時：6月11日（土） 午後4時～

場 所：熱海温泉 新かど旅館

テーマ：準備書面における主張立証のポイント

－準備書面の良し悪し－

講 師：岡部 譲

内 容：私は、研修担当副幹事長ですが、昨年9月まで東京高裁知財部（現知財高裁）で調査官をしていたことから、「ついでに講師もやれ」ということになり、調査官時代の経験に基づいて審決取消訴訟に対する取り組み方等について話をしました。一般の弁理士にとって審決取消訴訟を経験する機会は多いとは言えず、訴訟手続きは必ずしも適切とは言えない場合が散見されます。特に、審判での職権探知に慣れているせいか、弁理士の主張は発明の特許性を強調する技術論に傾きがちであり、具体的に審決の論理的な誤りを指摘するという基本的な点がおろそかにされていると思われます。講義では、そのような観点から、弁理士が審決取消訴訟に対処する場合に気を付けるべき諸点を指摘しました。

3. 特定侵害訴訟代理業務試験研修

日 程：9月13日、27日、10月11日（何れも夜間）

講師：弁護士 窪田英一郎先生
 受講者数：約140名
 内容：初回（9月13日）は特許系答弁書起案、
 第2回（9月27日）は商標系訴状を起案してもらい、
 第3回（10月11日）は前半で民訴系小問を起案、後半は講師による解説というスケジュールでした。

日弁として、本研修は3年目になります。昨年は東京と名古屋で2ラウンド開催しましたが、様々な組織が同種研修を開催するようになり、本年は規模を縮小して行いました。

それでも、140名もの受講者があり、大変盛況でした。前2年の経験を踏まえ、スムーズに進行することができたと思っています。窪田先生には初回からずっと講師を務めて頂いており、感謝に堪えません。

平成17年度日本弁理士 クラブ予算の紹介

副幹事長 林 秀 男

日本弁理士クラブ旅行会中の平成17年6月11日（土）に開催されました第2回総会におきまして、下記の通り、平成17年度の予算が承認されました。

予算内容は、概ね例年通りですが、昨年度の繰越金が増加したため、新人勧誘のための研修を開催すべく、研修委員会の予算を多めに取っています。

（単位：円）

収入の部

前年度会計からの繰越金	1,288,004
（¥200,000+¥1,088,004）	
各クラブ分担金	2,500,000
選対委員会残金	807,642
研修委員会残金	3,511,924
利息	20
合 計	8,107,590

支出の部

例会・総会	250,000
幹事会	500,000
会報委員会	1,000,000

協議委員会	150,000
政策委員会	200,000
規約委員会	100,000
HP委員会	200,000
研修委員会	2,100,000
連絡協議会	100,000
相談役会	75,000
組織検討委員会	100,000
旅行会	500,000
旅行会ゴルフ大会補助	50,000
新年会	250,000
ボウリング大会補助	50,000
テニス大会補助	50,000
庶務（含：慶弔費）	1,150,000
渉外・交通	500,000
幹事長渉外費	200,000
予備費	382,590
次年度活動準備費（繰越金一部前渡）	200,000
合 計	8,107,590



日本弁理士クラブ 政策委員会について

政策委員長 奥 山 尚 一

「何をすべきか」

日本弁理士クラブの政策委員会とは何をすべき組織なのでしょうか。

「何をしているのか」という問いには、とりあえず現在の活動を答えればいいので、それほど難しくはないかもしれません。しかし、「何をすべきか」という質問には簡単に答えられないように思います。それは、日本弁理士クラブの置かれた何か不思議ともいえる立場にもよりますし、委員長個人の考え方にも依存するところも大きいようにも思います。

日弁のおかれた位置

ちょっと整理してみましよう。いま、日本弁理士会の活動を直接的にサポートする団体としては、三

団体、すなわち、日本弁理士クラブ（日弁）と、西日本弁理士クラブ（西日本）と、弁理士連合クラブ（連合）があります。西日本はその名の通り広い地域を一つでカバーしていますが、複数の派閥が集まってできているものではありません。

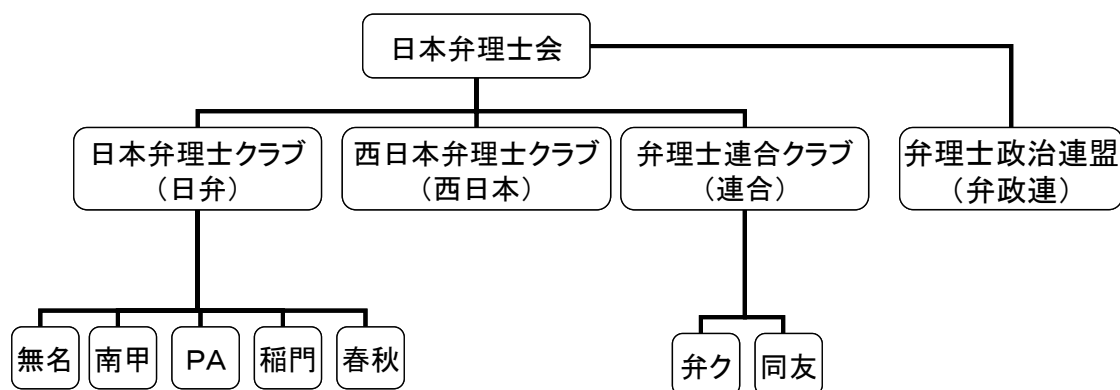
これに対して、日弁と連合は違います。連合が同友と弁理士クラブ（弁ク）という2会派から成り立っているように、日弁は、無名、南甲、稲門、PA会、春秋という5会派から成り立っています。会派はムラとか派閥ともいわれていますが、それぞれ幹事長または代表がいて、親睦や、教育、そして日本弁理士会の役員や委員の推薦といった活動を継続的に行っています。各会派は独立した生命体で、それぞれの組織と意志を持って活動しているといえます。例えば、委員会の推薦ですが、これは全8会派の代表が集まってやっています。日弁もお手伝いをしますし、昨年度までは日弁が主導で委員会人事を行っていました。今年からは、少し違って、弁理士会の事務局がより事務的には重要な役割を果たしていますが、それでも、日弁が動かなければ、委員会の人事を円滑にすることは難しいでしょう。皆様にも、ムラの幹事長や人事担当の役員から電話がかかってくる、委員会の委員に説得されてなることも多いことと思います。

日弁のメンバーというか、日弁5会派の会員の総計は約2,000人といわれています。本当に帰属意識のある弁理士が何人いるかは考えなければいけない問題ですが、弁理士の全体の数が6,000人と少しですから、日弁のメンバーが結構な数を占めているわけです。弁理士試験の合格者の増加に伴って会派に属さ

ない人が増えていることから考えても、一大勢力であることは間違いないでしょう。でも、やはり日弁は、独立した生命体である5会派の集まりではあるわけで、決して一枚岩ではありませんし、それはそれで悪いことではないと思います。

それから忘れてはいけないのが弁理士政治連盟です。これは、不偏不党であるべき日本弁理士会としては政治的なポジションを取りにくいので、別の団体として、法改正や知的財産改革推進本部の活動などの際に政治家に協力してもらえるよう、日頃から弁理士の存在をアピールするための団体を作ったわけです。1974年の設立ですので、比較的に新しい組織です。最近の報道を見ればよくわかるように、小泉首相以下の政府はもとより、自民党も民主党も、そして公明党なども知的財産に大変関心を持っており、政策的な提言を行うようになってきました。そのため、政治家との接触は弁理士業界にとって極めて重要になったといえますが、これは、ここ数年特に顕著になった傾向です。このような団体があるので、日弁としては、対外的に政治的な動きを行う必要は少ないわけです。

大事な点は、このような仕掛けは、誰か全体計画を立てた人がいたり、ある取り決めによって動いているのではなくて、自然発生的にできあがったということです。弁理士制度の105年ほどの歴史の中で、その場その場での決定が積み上がってきたものです。ですから、決して所与のものではないですし、法律に定められたわけでもなく、さらなる最適解を求めて変化しうるし、変わるべきものといえます。



内部構造

もう一つ重要な点は、5会派が集まって日弁ができ、2会派が集まって連合ができているという構造は、例えば、南甲弁理士クラブの会員になったと思っている人にとっては、どうして日弁があるのか、そして必要なのか、分かりにくくなっていることです。

日弁というのは、ある意味では、それを動かしている人たちの頭の中だけに存在しているともいえます。それは、日弁が5会派の集まりだということと結びついています。最近では、日弁独自の研修というのが増えてきました。しかし、それまでは研修や親睦は、会派の専属という形で、日弁は会派間の親睦団体という位置づけでした。すると、日弁は比較的に抽象的というか、日常的な活動からは切り離された活動が多いといえます。

基本的には、政策的な提言をするにしても、各会派がバラバラに弁理士会の会長に行くよりも、ある程度意見集約した方がわかりやすいので、日弁がとりまとめ、連合がとりまとめ、西日本がとりまとめ、さらにこれら3派のすりあわせも必要に応じて行うわけです。もちろん、会派のより直接的な目的である弁理士会の役員を選出においても、全8会派が集まってあれこれ議論するよりも、それぞれ日弁、連合、西日本の内部で話し合っただけの方が効率がいいかもしれないです。

この仕組みは、逆方向にも働きます。弁理士会の会長以下の執行部がとる政策を、弁理士会の会員に周知させて、より身近に感じてもらうためにも、日弁を通して議論を深めていくプロセスが役に立ちます。会長がある政策的なポジションを取るとき、あるいは取ろうとするときには、それを支持してもらわなければ、独り相撲になってしまうわけですが、執行部の考え方を弁理士会の会務に関心のある弁理士に伝える役割をします。

この仕組みが最適解なのか私にはわかりませんが、現在はそうっており、これが日弁の役割だと言ってもいいのではないのでしょうか。

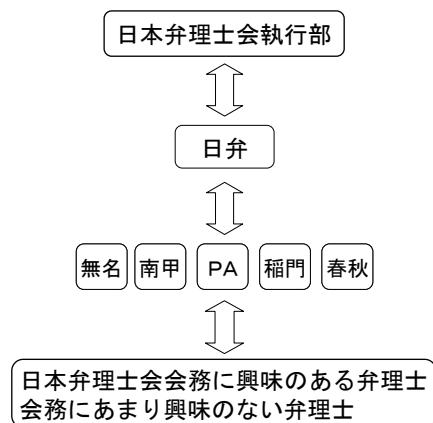
ここでの結論

したがって、日弁の政策委員会がすべきこととは、

日本弁理士会の政策的な問題について、執行部と所属各会派あるいはそのメンバーの間を取り持って、その間の情報と意思の疎通を図ることであるだろうと思います。

若干の課題

3派のメンバーの数は、ごく大雑把に言って、連合が1,000人くらい、日弁が2,000人くらい、西日本が600人くらいになっています。日弁は人数が多いです。すると、日弁は力を頼んで政策や人事のゴリ押しをするといった批判も出てきます。3派の間の調整というか、意思の疎通が、政策委員会のレベルでも、より重要になっています。そして、それは、おそらくは、日弁傘下の5会派が独自に行うことはあまり適当でないか、できない種類の活動であり、日弁が存在する所以であろうと思います。



これから

日弁政策委員会がこれから果たしてゆくべき役割については、いろいろな可能性が考えられます。大事なことは、それらの可能性について、積極的になければいけないということです。自らをこれまでの既成概念で縛ることなく、自由に対応していくことが求められます。

「何をしているか」

基本的な話からもっと実際的な話に移ると、今年の弁理士会の大きなテーマは、まずは、関東地区に限った課題ではありますが、関東支部の設立です。約4,000人の会員が所属する、少なくとも数の上では大きな組織となります。そして、弁理士法の見直し

と改正が前回の大改正から5年たって視野に入ってきました。この見直しは、前回の法改正のときに決議されていたものです。弁理士試験制度の全面見直しや、登録後の研修の義務化、法人化といった重要で、身近なテーマが目白押しになっています。さら

に、信託法の改正もあります。これらの一つ一つについて、できるだけ丁寧に、意見の集約と弁理士会執行部との意思の疎通ができるように、努力しております。皆様のご指導とご鞭撻をお願いいたします。
以 上

平成17年度叙勲褒章受章者

叙 勲 者

(春) 佐藤 一雄、石川 幸吉
黒田 英文

褒章受章者

(春) 飯田 伸行、筒井 大和
牛木 護、石原 詔二
村田 実

平成17年度表彰者

産業財産権制度運用特別功労者

佐藤 一雄 (内閣総理大臣感謝状)

産業財産権制度関係功労者

前田 純博 (経済産業大臣表彰)
吉川 勝郎 (特許庁長官表彰)



旅行会報告



旅行会報告

旅行会担当副幹事長 西出 眞 吾

〔熱海温泉 新かど旅館〕

平成17年6月11日（土）から12日（日）にかけて、日弁恒例の旅行会が開催されました。西日本弁理士クラブの皆様の便宜等のため、新幹線でのアクセスを考慮して熱海温泉を候補地に挙げました。東京近郊在住の会員の皆様には馴染み深い温泉地ですので、旅館の選択には注意を払いました。新かど旅館は、代議士として著名な鳩山家の別荘であったとのこと、なるほどその佇まいは旅館らしくない、一部屋が広くたいへん趣のあるものでした。ただ、旅館への道路が狭く複雑で、自家用車で参加された皆様にはご迷惑をおかけしました。

今年は、日本弁理士会正副会長会から7名、日本弁理士政治連盟から4名、西日本弁理士クラブから7名、弁理士連合クラブから7名のご参加を戴き、当クラブの57名を加えた合計82名の旅行会となりました。

〔講演会〕

一昨年及び昨年に引き続き、今年も講演会を企画しました。ここ2年の能力担保研修及びその試験に係わる講演もたいへん有意義な講演でしたが、能力担保研修及びその試験も一段落したので今年は趣向を変え、「審決取消訴訟の準備書面における主張立証のポイント」をテーマに選びました。講師には、3年近く東京高等裁判所（現知的財産高等裁判所）において調査官を歴任されたP A会の岡部譲先生をお迎えし、準備書面の良し悪しを実際の経験に基づいて語って頂きました。日常業務においてはなかなか聞き難い準備手続の実態やポイントをお話いただき、参加者にとってたいへん有意義な研修でした。



講師の岡部譲先生

〔宴会〕

講演会終了から宴会までの間に大浴場や露天風呂で汗を流していただき、6時40分に宴会場に集まって集合写真の撮影です。従来はプロのカメラマンにお願いして撮影してもらい、お帰りの際に参加者全員に写真をお渡ししていましたが、今年はその費用を別のところに使おうということになり、幹事が自前のカメラで撮影しました。



平成17年度日弁旅行会（新かど旅館にて）

いよいよ宴会のスタートです。早川裕司幹事の司会で、久保司日弁幹事長の挨拶に始まり、海外出張中の佐藤辰彦会長に代わって谷義一総括副会長からご挨拶を頂戴したのちご臨席の副会長をご紹介いただきました。続いてご来賓である西日本弁理士クラブの小森久夫幹事長、弁理士連合クラブの永井義久幹事長、日本弁理士政治連盟の加藤朝道会長からご挨拶を頂戴し、それぞれのグループのご臨席者をご紹介いただきました。続いて日弁会派を起立形式で紹介したのち、浅村皓日弁常任相談役の音頭で乾杯

し、これ以降は歓談タイムです。

集合写真の費用を何処に廻したかという、実はコンパニオンでした。熱海という「芸者」を連想しますが今年は幹事団が独自に搜索して見つけたコンパニオン軍団15名を呼びました。



〔二次会〕

旅館周辺には気のきいたお店が少ないため、二次会は旅館の中広間で行いました。計画では40名も来てくれれば充分と思っていたのですが二次会開始早々から予想もしなかった人数で幹事も少々慌て気味。二次会に呼ぶコンパニオンは当初5名の予定でしたが、急遽10名に増員して対応。ちょっと予算が心配…。皆さんの熱い語らいは深夜まで続きました。

翌朝玄関でゴルフ参加者の方々を見送って、今年の旅行会も無事終了しました。



日弁ゴルフ大会報告

担当幹事 岡 部 譲

日弁旅行会二日目の恒例行事として、下記要領で日弁ゴルフ大会を行いました。

場所 伊豆大仁カントリークラブ

日時 6月12日(日) 8時45分

富士コース→天城コース(5組)

天城コース→箱根コース(5組)同時スタート

参加者の総勢は35名で、西日本からは5名、連合からは3名の先生も御参加いただき、大変盛会でした。伊豆大仁カントリークラブは富士、天城、箱根の3コースで構成され、プレーするコースの順番が決められていることから、全員同じ条件でプレーすることはできませんでしたが、天候にも恵まれ、終日楽しくプレーすることができました。

結果は、以下の通りです。優勝は無名会の八木秀人先生で、グロス87、ネット71.4の好成績でした。準優勝は南甲クラブの乗原史生先生(グロス95、ネット72.2)、3位は連合クラブの木下實三先生(グロス87、ネット72.6)でした。また、連合クラブの川久保新一先生は39+42=81の素晴らしいスコアでベストグロス賞に輝きました。

プレー終了後、パーティー並びに表彰式を行い、バスで熱海駅に向かい、解散しました。

日本弁理士クラブゴルフ大会 順位表

平成17年6月12日(日) 於：伊豆大仁カントリークラブ

順位	氏名	GROSS	HDCP	NET	順位	氏名	GROSS	HDCP	NET
優勝	八木 秀人	87	15.6	71.4	19	川 和 高 穂	110	32.4	77.6
準優勝	乗原 史生	95	22.8	72.2	20	神 林 恵美子	102	24	78
3	木下 實三	87	14.4	72.6	21	河 宮 治	95	16.8	78.2
4	岡 部 譲	95	21.6	73.4	22	和 田 成 則	95	16.8	78.2
5	川久保 新一	81	7.2	73.8	23	木 戸 良 彦	101	21.6	79.4
6	村 田 実	85	10.8	74.2	24	吉 岡 宏 嗣	111	30	81
7	高 橋 祥 泰	97	22.8	74.2	25	小 泉 勝 義	100	18	82
8	丸 島 儀 一	90	15.6	74.4	26	真 田 有	109	26.4	82.6
9	小 池 寛 治	90	15.6	74.4	27	谷 義 一	114	31.2	82.8
10	永 井 義 久	96	21.6	74.4	28	伊 東 忠 彦	113	30	83
11	中 島 三 千 雄	88	13.2	74.8	29	松 田 正 道	104	20.4	83.6
12	宮 崎 元 成	97	21.6	75.4	30	丸 山 幸 雄	120	36	84
13	河 野 哲	97	21.6	75.4	31	福 田 賢 三	117	32.4	84.6
14	江 藤 聡 明	96	20.4	75.6	32	久 保 司	121	36	85
15	菊 池 武 胤	100	24	76	33	田 中 秀 佳	113	26.4	86.6
16	竹 内 耕 三	102	25.2	76.8	34	木 戸 一 彦	119	31.2	87.8
17	高 橋 俊 一	86	8.4	77.6	35	浅 村 皓	143	36	107
18	福 岡 正 明	104	26.4	77.6	36	貝 塚 亮 平	143	36	107